村松麻由
原作：舞阪洸
落ちてきた龍（ナーガ）と滅びゆく魔女の国
1
キャラクター原案
よう太
MFコミックス

辺境に広がる
「黒い森」の奥に
女だけで暮らす
一団がいた
人は彼女たちを
「魔女」と呼んだ
魔女とは即ち
異能者の
ことである
お邪魔では
ありませんか
ハリガン姉
構わぬ
湯殿は本来
寛ぎの場
遠慮せず
こちらに
来よ

Mayu Muramatsu

村松麻由

Kou Maisaka

原作 舞阪 洸

キャラクター原案 よう太

落ちてきた龍王と
渡りゆく魔女の国
1

contents

第1話
湯殿に落ちてきた男
1

第2話
魔女との邂逅
13

第3話
その男の名は龍王（ナーガ）
43

第4話
魔女と人との戦い
79

第5話
一の砦の攻防
119

――一方
魔女の国から
時と世界を
遥かに越えた
ある処
――
ここに龍が
棲んでるって!?
こんな澄んだ水に
棲めるもんかよ
第一 湖底が
丸見えじゃ
ねえか

わざわざ
遠くまで出張って
来たってのに
どうも眉唾物
だったらしいな
…ったく
信じた
俺が…
馬鹿だった
ぜっ…!?
な…なんだ…

本当に何か
いるってのか!?
なんなんだ
これは…町…
いやしかし
あんな建物は
……
いったい俺は
何を見て
いるんだ…
いや…
見せられて
いるのか…!?

ああああ
!?
ガボボボボ

若っ
若――っ!!
そんな傾いた格好で従者も付けずにふらふら歩き回るからうつけ者呼ばわりされるのですぞ!?
うつ・つ・け…!?
お止め下さい!!
龍神の棲む湖に一人で行くなど!!
…様――っ!!
あれっ…!?
俺は……

ぬなっ!?
……

～第1話おわり～

第2話　魔女との邂逅

〰!?
き…
貴様は何者だ
★◇!?
む!?
言葉が
通じていないか
?
この異装
異国人か
ならば無理も
ないが…
☆■▽×≠
♀£$★↑∈

何を言ってるのかわからんな…
少なくとも教会側の暗殺者ではないようだが…
な…
なんじゃ貴様は!?

ああ
うっ!!
通訳しよう!
男はこう
言っていた
――――

#S☆>И
これほど
ИДШ+
見事な乳は
#S☆>ИШ+!
見たことがないっ!!
そんなに
強く掴むなっ!!
#S☆>И
なんという
ИДШ+!
大きさ!
#S☆>И
なんという
ИДШ+!
滑らかさ!!
#S☆>И
なんという
ИДШ+!
弾力!!
ハッ
ハリガン姉っ!?
おとおと
おとおと男が
ハリガン姉の
おっぱいおお
お……!?

ゴゴゴゴゴゴ

殺す殺す

殺すう!!

男は殺すうう!!

こら！

落ち着けユウキ！

貴様も落ち着け！

そして何を言っている!?

巨乳☆巨乳巨乳!!

ええい

落ち着けと……

ぱしゃ
言うに！
……
触る揉む
ШΦΤЯЬvii
舐める埋める!!
☆ИS#3%!!
何を言ってるか
わからんが
貴様は
もっと
落ち着け
――!!

!?

…いったい
何なんじゃ
この男は

異国人で
あろうとなかろうと
吾の血界(けっかい)を
気づかれずに
破れる者など
この世界に
存在しない…

であれば
此奴(こやつ)…

異国人ではなく
異界人だと
いうのか

だと
したら
……

ぬしが主
ハリガン・ハリウェイ・
ハインドラが命じる
吾が娘
アイスとレラを
呼んでまいれ

頼んだぞ

ゴゴゴ
ザッ

姉様
アイスですよ
レラで
す
ユウキの奴を
運んで欲しいん
だがな
またユウキが
何かやらかし
ました…？

って…
ぷかぷか。
それは
男では!?
まさか
人間どもが
送り込んだ
刺
客…
いや慌てるな
そういう事では
ないのだ
たぶんな
…はい!?
とにかく
此奴から
話を聞くしか
あるまいよ

姉様どこへ運びますか!?
とりあえず吾の部屋だな
まだ騒ぎにしたくない
おまえに運んでもらっている剣だが――
それからレラ
これですか
不思議な形をしていますね
あの男が持っていたのだよ
ではやはり
刺客ではないのですか

お前が
そう考えるのも
無理はない
吾ら魔女は
長きにわたって
異端を嫌う
人間達と戦い続けて
いるのだから
だがおそらく
此奴は違うよ
何しろ
そ奴は
剣を抜く
気配すら見せずに
吾の胸に掴みかかって
来たのだからな…!

ユウキは
こんなところで
いいですか!?
ああ
目を覚ました
ところで
大声を出されて
他の娘に男の存在を
知られると困る
はい
では……
レラ
準備は
いいか

…▼…
…#$…?
йSьvii
ЯФЩЙ
☆ПбЄ
ПЯ!!?
カii
ほii
まあ落ち着け
…と言っても
わからんだろうが
……！

ふむ…
あの
取り乱し方が
嘘のように…
なかなか肝が
据わっておる
ようだな

此奴…
大物
なのか
ただの馬鹿
なのか…

このわけの
わからぬ
状況で
よくもこう
落ち着いて
いられるものだ

レラ
はい
姉さま
しゅん
?
!?
案ずるな
おぬしに
危害が及ぶ
ものではない

吾の…
言葉が
わかるか…!?
☆◆∩…
言葉…
%#…が
通じる…のか…
おお！
通じたか！
さすがに
レラよな
まあ
このくらいは当
然

レラは
魔法について
だけは
自信家だものね

アイスは
怪力について
だけは
誰にも
負けない
それと
同
じ

あら
私の怪力も
魔法のひとつよ?

これ
静かにせんか

で
どうじゃ
おぬし吾の言葉が
わかるのだな

ああ…
わかる…

では礼儀として
まず吾から
名乗ろう
吾はハリガン・
ハリウェイ・ハインドラ
ここに棲む
魔女たちの長だ
まじょ…
魔女…!?

魔女とは
何だ？
やれやれ
そこから説明
せねばならぬのか
パチ
パチ
魔女を一言で
言うなら
魔法を使う
女という事に
なるな
ほほぉ…
そうか
よくわからんが
わかった
全然
わかって
おらぬだろうが
!!

いやいや
ただわからねえ
言葉を一つ一つ
説明してもらってると
いつまでも先に
進めないんでな
とりあえず
ざっくりと状況を
把握できればいい
なぬ!?
此奴…
異界に急に
放り出された割には
現実への対処が
落ち着きすぎる
いったい
どんな素性
……

教えてくれ
おぬし…
おぬしは
何者なのだ
どこから
来たのだ!?

俺か!?
俺はな
……

…ん!?
俺は 誰だ!?
…それは
吾が訊いておるの
だがな

俺は…
俺の名前は
……
くそっ何だ
この不快な感じは
……！
姉様もしかして
その男
記憶を失って
いるのでは
ありません
か!?
…だとすると
何もわからん
ままだな
はて
どうしたものか
…いや…
…ナ…ガ…

ナーガ!?
それは
何のことだ!?
俺の名前の
一部…
のような気が
するんだが
他には思い出せん
俺はいったい
どこの誰なんだ
…

吾らの知る
「ナーガ」という
言葉は
「龍」または
「龍王」を意味
する…!!
それが己の
名前の一部
だと…

本気で
言っておるのか
この男!?
まあ それは
さておいてだな
それともただの
狂人(たんじん)か――
は!?

腹が減ったな

ぎゅ

…ふ…
ふふふっ…
ね…姉さま…!?

ふふっ…
なんと愉快な男よ……！
～第2話おわり～

第3話　その男の名は龍王（ナーガ）

ちょっと
待って下さいね
今 果汁を
搾りますから
フトっ
ドサ
ポコポコ
…凄(すげ)え力持ちだな
おまえ

わたし
人の頭くらいなら
簡単に潰せます
だから
あなたも
変な気は
起こさないで下さいね

魔法…
え？
レラの呪符で
言葉を通じる
ようにしたのが
魔法なら
アイスのこの
能力も魔法だ
……
吾らが
怖くなったか!?
それなら
正直に言って
もらっていい
魔法が使えぬ
〝人〟なら
当然の反応だ

確かに…
怖いことは
怖いけどな
そんなの武器を
持ってる奴が
怖いのと
同じことだろ？
魔法だろうが
何だろうが
あんたらも俺達も
何も変わらないぜ

人が皆おぬしのような者はかりなら
吾らも戦をせずにおられるのだがな
戦!?
あんたたちは戦をしているのか!?
ああ…吾らは人に非ざる能力を持っているが故に
「悪しき存在」として人に忌み嫌われ遠ざけられてきた……
——遠い昔はまだ良かったのだ
人の中にも吾らの存在を認める者たちがおり
人の国も今ほど強固ではなかった
だが…
人どもは山野を切り開き新たな街を造った
農業が発達して収穫量が増えると自然と養える人口も増える
そうして人口を増やした人どもはあちこちに進出した

さらに教会勢力の
伸張も忘れてはならん
そもそも連中こそが
吾らの敵だ…！
奴らは吾ら魔女を
異端と断じ滅絶させるべき
存在と触れ回った
そうして人は
魔女を敵と認識し
隙あらば
討滅しようとして
攻撃を仕掛けて
来るようになった
でもあんたたちの
才能があれば
自分たちの
身を守ることは
出来るんじゃ
ないのか!?

そこが吾らにとって
最も重要な問題だ
吾ら一族は
女だけの
集団な上に
圧倒的に
数が少ない
しかも魔女は
子をなすと魔力が
失われるのだよ
ちょ…
ちょっと待った
女だけの
集団って
言っても
あんたたちに
父親は
いるんだろ
それとも魔女は
子をなすときに
男は必要と
しないのか!?

争ってはいるが
吾らとて〝人〟…
父親もいれば
子をなすのに
男もいる…
相手の男は
適当に
見繕うのさ
吾らにとって
父親はどうでも
いいものだ
生まれて来る子が
魔女としての
資質を宿して
いればな
…そして
生まれた子が全て
魔力を宿している
とは限らん
だから吾らは
数が増えない

こうして
魔女たちは
この黒い森など
一部地域に
押し込められて
しまったのよ
…まあ
俺のいた国でも
似たような
くだらねえ争いが
絶えなかった
…ような
気がするわ
……！

――って
とりあえず
食っても
いいか!?

…あ
ああ
…

おっ
見慣れん物だが
うめえ!!
こやつ
遠慮という
言葉を
知らんのか…

あ
言っておくがな
こんなどこの馬の骨ともわからねぇ俺に
飯を食わせてくれようっていうあんたたちが
「悪しき存在」であるわけがないわ！
——どうせ行くあてもないのだから
退屈しのぎにはなるだろうて
しばらくここで面倒を見てやろう
でも姉さ
ま

それだと
ユウキ
が…
…んっ…
誰か…
呼ん…だ
…!?
こいつは
…
へえ
また
変わった味だが
なかなか…
やらぁ…

ガバッ
殺すっ！
!?
絶対殺すっ!!
何が何でも殺す
――――!!
ユウキ!?
まかせて
姉様!!

痛い痛い
痛い
痛いっ…！
メキメキ
あまり
騒がないで
くれるかな
ユウキ
姉様も
迷惑するし

わかった
痛い
わかった
痛いっ
肩が
砕けるっ…

よかった！
わかって
くれて

この女…
見た目は
優しそうなのに
中身は一番
こえええな…
ポロ

ユウキも
わかってくれた
ようですから
さあっ
お食事の続きを
どうぞ！
い…いや…
どうぞと言われても…
お前…
何でそうまで
男嫌いなんだ!?
昔…
何か
あったのか!?
…わた…
前…
触れ
……
なんだ!?
聞こえねーよ!?

わたしの前で
その話題にっ……
触れるなぁ――!!

くっ……！
ボオオ
こいつ……！
……あ！
凡腰
いかんっ
止めさせよ!!
男なんて
男なんて
男なんて
殺す殺す
殺す
みんな
殺すう…
ぼお…

危なかったですね
いや…今 ぼぎゅって音がしたぞ!?
大丈夫なのか…!?
きっと大丈夫ですよ
ユウキは割と丈夫ですし
そ…そうか
ならいいんだけどな
しかし今のは…

ユウキが
男嫌いの理由を
詮索するな
吾も今
おぬしに説明する
気はない
…わかったよ
以後
気をつけよう
そうせい
それより早く
残ったものを
食べてしまえ
いや…
もういいわ
腹も膨れたし
俺の軽はずみな一言で
そいつを怒らせて
しまったし――
そうか

とても美味かったよ
助かった
礼を言う
あんたらに出会えてなかったら
俺はその辺で野垂れ死んでいただろう
いやいや大したことをしたわけではないぞ
いやいや大したことさ
さっき俺の脳裏に浮かんだ言葉がある
それは「一宿一飯の恩義」ってんだが…

今の俺がまさに「一宿一飯の恩義」に与った身だ！
この礼は必ず返す……!!
そこまでムキにならんでも
……しかし思った通りの反応だ
吾らを拒絶するでも同情するでもなく
――では
此奴を皆に紹介するか……！

男…!?
男を一族で養うのですか
これは吾が出した結論だ
今さら変える気はない
ハリ姉がそこまで言うのならもういいです
何があってもわたしは知りません
此奴の名前だが…
本人の断片的な記憶に基づいて…

「龍王（ナーガ）」と
呼ぶことにした
くるる…
似合わない
くくくく！
本物の龍王に
殺されますよ!?
うーむ
やはりそう
くるか…
娘たちも
悪気は
ないのだが
構わねえよ
そもそも龍王が
何かを俺は知らんしな

翌日――
この森の周囲を
見て廻りたいだと!?
この世界が
どういうところなのか
見ておきたいんだよ
とは
言っても
……
あいにく
今の吾には
おぬしを
案内する暇が
なくてな
私なら呪符が
扱える
の
で
言葉に問題が
生じても
対処出来ます
し
姉様 私が
案内しましょう
か

レラ！
おお
あんたか！
あんたに
頼みたい事が
あったんだ…！
この札の位置
なんとか
ならねぇか!?
飯食う時とか
邪魔になってな
貼り直して
やれるか!?
機能的には
支障ないかと
では首の
後ろに…
とうだ
吾の言葉は
わかるか!?
ああ
問題ないぜ
それじゃあ
案内役もついたし
行ってくる
――！
こらっ
待たんか
――っ!!

なんだよ
問題ないって
言ったろ!?
そっちの
問題では
ないわ!
吾が言いたいのは
このすけべな男と
レラを
二人きりにして
いいのかと
いうことだ
失礼なことを
言うな!
あ…
……
まあ
大丈夫だと
思いま
す
いざとなれば
火炎呪で
燃やしま
す
そうか
では任せた
そしてお前は
考え込むな
〜〜〜〜〜!!

レラ
くれぐれも
気をつけよ
あの男
にな
だから！
聞こえ
てるよ
失敬だな
いきなり
人の乳を揉みに
来た男を
心配するなと
言う方が
おかしくはないか!?
あ…あれは
……
突然のことに
混乱しただけだ
もう心配は
無用だ
…そう
願いたいものだな

いつもは
物事に対して
淡泊なレラが
ここまで積極的に
なるのは珍しい…

レラはレラで
あの男に興味を
持ったということか

どこまで
歩いても
薄暗い森だな

ここにいると
気が滅入って
きそうだぜ…

わたしたちも
住みたくて住んで
いるわけではな
い

森の中で
暮らさざるを
得な
い

人との軋轢を
避けるために
の

——おまえらは
それで満足なのか!?
人に追われる
ように
森の中に
逃げ込み…
人との軋轢を
避けるためと言って
こんな森の中で
じっと息を潜めて
暮らす…
それで
いいのか!?
満足な
わけな
いっ!!
……!

…今のは
忘れて…
わかった
おまえがそう言うなら
これ以上は訊かねえよ
手…
あたたかい…

あっ
待っ…
ああ…
凶悪で凶暴なのが
一匹いやがるぜ
何か獣で
も!?

あ…
たしかに
凶暴な獣
だ
しっ
特定の人物に
とってのみだ
けど

なんだ
あいつ
あんな顔
して
笑えるのか

熱心に見てる
ね
まあ
わかるけ
ど
でも少し
熱が籠もりすぎてるか
も
このまま
では
ユウキに
気づかれる
ナーガさ
ん
あ…ああ
悪い悪い
ついな
動かない
で！
見てしまった
ものは
仕方ないで
す
大事なのは
気取られない
こと
です

覗いていたのを
気取られたら
あなたは
殺されま
す
九割九分
九十九厘確実
に
それもう
十割超えてる
じゃねぇか！
ええ
ですから
確実にで
す
こればかりは
姉様が止めても
ユウキは聞く耳を
持たないで
しょう
ん!?

やべえ
気づかれた…!?
いっ…今
気配を断つ
呪符をっ……
ばたばた
砦の方から…
危急を報せる
狼煙が!!
～第３話おわり～

第4話　魔女と人との戦い

行ってしまった…
命拾いしましたね
あ…ああそうみたいだな

なぁ 俺達も戻らなくていいのか!?
砦で何かあったのは間違いないようですね
私達も戻りましょう

なぁ…
あんたは
あいつの
仲間なのに
どうして
俺のことを
庇ってくれた!?
むしろ仲間なら
俺が見てることを
報せたって
いいくらいだと
思うんだが
そうです
ね
一つ取引を
しましょう
ナーガ
さん
…あ

そういう企みかなら話がわかるわ
で 何が条件だ!?
あなたが失くした記憶を思い出したらどんな事でもいいので
真っ先に私に知らせて下さい
……そんなんでいいのか!?
あなたにとってはそんなことかもしれませんが
私にとっては重要なことなので
す

ここではない
「別の世界」などと
いうものが
もしあるなら
是非
そこのことを
知りたいのです

——ああ
いいぜ
いくらでも
話してやる
ありがと
う

ところで……
一つ訊いていいか!?

なんですか!?
なんであいつ…
ユウキはあそこまで男嫌いなんだ!?

詮索するなと姉様に言われたはずで
すが!?

いや…どうも気になってな
ああまで激烈な反応を見せるなんてのはよほどの事があったんじゃないのか!?
そうですね
ユウキは特別なんです

何がどう特別なんだ!?
それは私が言うべき事ではありません
もったいぶった言い方だなぁ
なかなか忘れられないものなので す
幼い頃の
辛い体験というのは
…なるほどな…
そいつは俺にもあったってことか
となると……

記憶喪失ってのも
あながち
悪いことじゃねぇな

あ
すまん
俺達も
急がない
とな！

では
駆けます
遅れずに
ついて来て
下さい

……

姉様！
何がありまし
たか!?
レラか

一の砦から
伝書鳩が
飛んで来たのだ
人の軍が
攻めて来たと
連絡があった

どこの軍
です…と
訊くまでも
ありません
か

偵察にしては
人数が多いですね

うむ
カサンドラ軍の
軍勢だな
二百人ほど
いるのではないかと
文に書いてある

そう
そこが
問題だ

これまでは
多くても百か
そこらで
砦直下の地形を
調べたり
砦に向かう斜面を
登って来ては
吾らから攻撃を
受けて逃げるという
繰り返しだった

本当に
二百もの兵を
投入してきたのは
なら
カサンドラは
いよいよ本気で
砦を攻略する
つもりかもしれぬ

今ここにいるのは
セレナとディーとケイにノーザです
か!?

先ほどユウキが帰って来たのだがな
ナーガが森に出ていると言ったら
戻って来た時顔を合わせたくないと逃げおったわ

なんだよ
～～～

それは逆に幸いだったかもですね

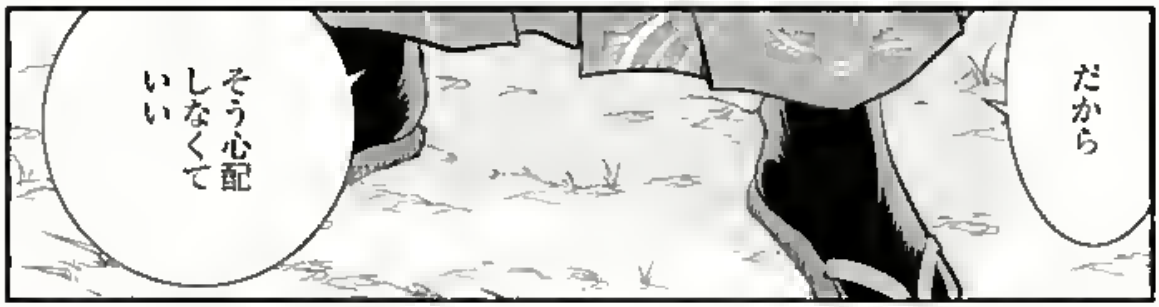
ん!?
この二人……
いや…今はそれどころではないな

とりあえずいる者だけでも出撃するしかない
お前たち急いで支度しろ

最近は人の軍の
動きが随分と活発に
なってきている
これまで同様
押し返せるか…
なあ
ハリガンさん
なんだ 今
忙しいのだが!?

どうやら
戦のようだな
どうせなら
俺も連れてって
くれねえか!?
いやしかし…
言ったろ
俺は一宿一飯の
恩は返すって

危険だぞ!?
俺は戦には慣れてるんだ
細かいことは憶えちゃいねぇが
戦の経験があることだけは間違いねえって
それも幾度となくな


だから
そう心配しなくていい

…そうか確かにおぬしをここに一人残して行く方が不安だからな
心配してくれるのはありがたいけどな
おぬしを残しておくとここに残る子らに何をするかわからん
そっちかよ!!
そっちの心配かよ……

当たり前だろう
おぬしはいきなり空から降ってきて
いや…あれはな…
俺も突然見知らぬ世界へ飛ばされてきて
混乱したというか錯乱したというか
いきなり人の乳を掴んで揉んだ男なのだからな
なっ!!
そんな目に遭えば
誰だって自分でも予想だにしない行動を取ったりするだろう!!
混乱していた割には一直線に吾の胸を揉みに来たな
ばっ
すまんっ!!

なんというか
あまりに魅力的な
乳だったのでつい
揉みたくなったんだ
形といい
大きさといい
張りといい…
あんな素敵な物を
目にすれば誰だって
掴みたくなる
揉みたくなる…
…ってゆーか
ならない奴は
男じゃねぇわ
あ〜〜〜もう
わかったから
黙れ
聞いてる
こっちが
恥ずかしくて
いたたまれ
なくなって
くるわ
それは
さておき
おぬしが
来たいなら
それもいいだろう
足手まといに
なるなよ
言われる
までもねえ
では
ついて
来よ

ハリガンは
戦支度中…
俺は別に
このままの格好で
構わないわけだが
なんか
足りねぇ…
腰が空なのが
いけねんだよな
……
やっぱり…
どこに
行ったんだ
俺の得物
……
待たせたな
ギィ
いや
それほど
待ってねぇ…
――って!?

全っ然
変わって
ねえ!!
変わって
おるわ!!
この長裳が
さっきより薄く
なっておろうが!!
薄くこって
これから戦に
出るんだぞ!?
なんで鎧を
着ねえんだ!!
それじゃあ
斬り合いも
出来ねえだろ!?
その前に
弓を
撃ち合った
だけで討ち死に
するだろうが!!

…ああ そうか
また詳しく話してなかったな
吾らの戦い方を
つまりな 吾らは前線に出て戦うことをしない
弓を撃ち合うこともない
何故なら
金属は魔力を滅殺するからだ
魔法の行使の妨げとなるからだ
だから吾らは金属製の武器も持たない
服もなるべく魔力を妨げない薄手のものしか着ない

魔力の効果を
最大限に活かすのでは
あれば裸が一番…
もやもやん
…おい
貴様
今 不埒な事を
考えてなかったか!?
ぶんぶんぶん
な…なら
どうやって
戦ったんだ!?
説明するのは
難しいな
それに今は
その時間も
ない
まあ
見ていれば
わかる
そうか
じゃゆっくり
見させてもらうわ
けどまさか
さっき広場にいた
人数だけで
迎え撃とうって
わけじゃねえ
よな!?

森に出ている娘があと数人は駆けつけてくれるはずだ
数人かよ！
それじゃあ合わせても十人に満たないんじゃあないのか!!
おいおい！
戦は質より量だぜ!?
敵は二百ほどいるんだろ!?
それを相手にたった十人かそこらで戦うと…
仕方あるまい
吾らにはそれしか戦力がないのだから
…今までもそうだったのか!?
そうだったよ

か～～～～～
よくそれで敵の攻撃を跳ね返せたものだな
それはおぬしが
吾らの戦い方を知らんからだ

自信ありげだな
その目で見ればわかる
ああわかったあんたらの勇姿を拝ませてもらうぜ
では吾についてくるがよい

あちょっと
待った
あんたら
さぁ…
どこかで
俺の得物
見なかったか!?
得物…!?
それは腰に
差していた
変わった剣の
ことか!?
そうそうだ
それ!!
返しちゃ
くれねえか
!?
むそうだな
戦場について
来るのに
武器が何も
ないというのは
具合が悪いか
待って
おれ
これじゃな

お――っ
これだ
これ!!
これがあると
ないとじゃ安定感が
違うわ!

ふふ…
まるで
おぬしの体の
一部のようじゃな
体の一部は
大げさだが
丸腰なのは
どうも不安でね

この剣…
いや…
剣…!?
違うな
こいつは
剣じゃねえ
これは…
これはな
これは…
そうだ
思い出した！
これは
刀だよ!!
カタナ!?
その武器の
名前か!?

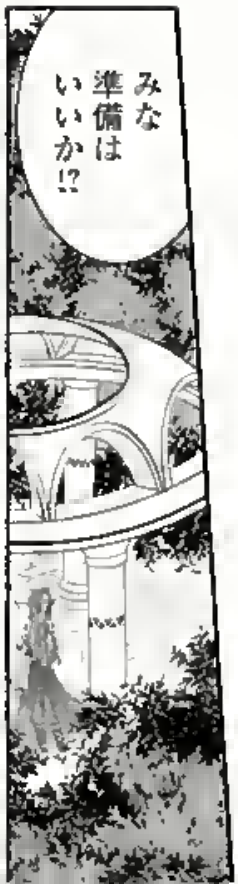
名前というか…
そういう名前を
した剣の一種だと
思ってくれたらいいや

おぬし剣のことを
思い出したのだな
他には
何か!?

いや…
やはり
駄目だな

まぁそう
気落ちする
でない
たとえ一つでも
思い出せたと
いうことは
これから先も
思い出せるという
ことではないか

…だな
気長に
行くか


みな
準備は
いいか!?

ではこれより
吾らは一の砦に
向かって出発
する！
はいっ
姉様!!
どいつもこいつも
あんな薄い格好で
――
本当に
大丈夫なのか!?
俺がいた国の
戦は常に
死と隣り合わせ
だったはずだ
女・子供は
怯え
常にどこかで
血しぶきが
上がる――
――!
じと…
なんだよ
高揚してんのか!?
まあいい
お手並み拝見と
いくか
――そして
いざと
なりゃあ…

俺と顔を合わせたくないから逃げたって話だけど
ちゃんと戻って来てんじゃねぇか
あっ
ユウキ

ん!?
何か言ってる……!?
死ねっ
嫌われたもんだなおい…
まあ元々が嫌われ者だったが

…っていやそうだったか……!?
……そうだった気がするな……

おおい
ハリガンさん
よ――!!
バタバタバタ
馬はないのかぁ
――!?

ないな

なんだって……

どうして馬がいないんだ!?
野生の馬を飼い馴らすのは難しいのだ
吾らにそんな余裕はない

だったら買えばいーじゃねえか…

人が敵対者である我々に
馬を売ってくれると思うか!?

それに馬は乗りこなすのが難しい
こんな森の中で走らす危険性を考えれば
自分で歩いた方がマシだ
何ならアイスに背負わせてもいいが!?
そ…それは遠慮しとくわ
軟弱者ね！
自分からついて来たくせに
結局のところあんたって男は
軟弱で惰弱で単なる大馬鹿ってこと！
こいつここぞとばかりに…
俺のいたとこじゃ馬に乗るのが普通だったんだよ!!
そうなのか!?
……
たぶん…

どこまで
いくんだよ
…
ほ
これ…
ほ
はぁっ…
もう歩けねえ
!!
これ
しっかりせい！
もうすぐ
着くぞ
あそこに
見えるのが
一の砦だ
ハーイ

砦と言っても
案外小さいな

ナーガ
こちらへ

この砦に
詰めている
双子の姉妹

リンナと
リンネだ

人の軍は
どうしている!?

今 望楼(ぼうろう)で
クゥが
見張っています

俺も
登っていいか!?
かまわん
よ

アイスたちは
アレを
出しておけ
夜が明けたら
動かす

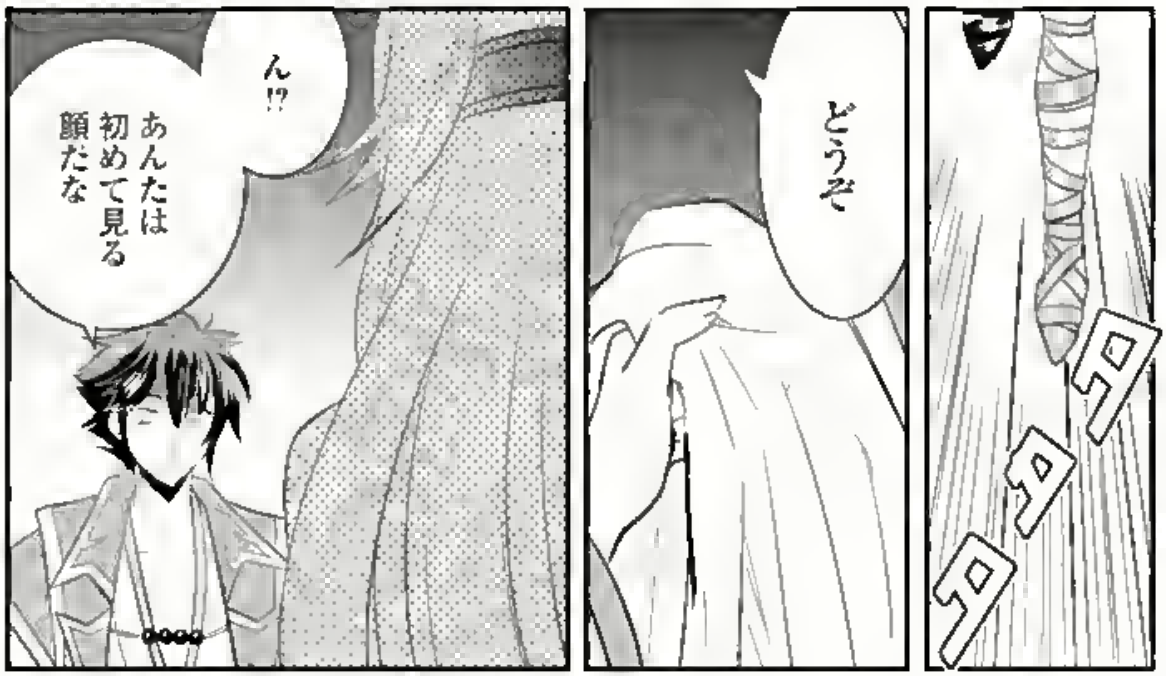
吾も
登っておくか
レラとリンナは
ついて来よ!

よし
行くか

ナーガさんは
私に続いて
登って来て下さい
承知した

おおう!?
ここの連中
開放的な
衣装の上に
恐ろしく
活動的だな
まあ
当人たちが
それでいいなら
俺が
とやかく
言うことじゃ
ないが――

せっかくだし
少し
ゆっくり
登るか♪
さすが
てっぺんは
風が強いな


ん!?
あんたは
初めて見る
顔だな
どうぞ
ヲヲヲヲ

私はクゥ
明け方
冷える
使って
お…おう
すまねえな
ていうかお前こそ
涼しそうな格好だな
寒く
ないのか!?
大丈夫
これ
保温性
ある

それが!?
本当か!!?
本当
触ってみると
わかる
おいおい
本当に温いぜ
これ！
へえぇ…
あっ…
そこは
困る…

何をしとるか
貴様は――
――!!
い…
痛ええ!!
てゆうか
お前の
その髪!?

いや そいつが
この革帯は
温かいから
触ってみろって
言うからさぁ

これは吾の
魔法の一端だ
それより
貴様
何を
していた…!?

貴様
革帯ではなく
クゥの体を触っては
いなかったか!?
気のせいだ
こ…
こいつは…
お前もこ奴に
気を許しては
ならん
何しろいきなり
人の乳を掴んで
揉むような
奴だからな

つまり
姉様
この人に
乳
揉まれた
ですか!?

あ～～～
ほ
今の話は
忘れろ

貴様も
悪戯が過ぎると
そこの崖から
突き落とすぞ
わかった
わかった
もうしねえ

ん…
夜明けか…
あれが…
敵の軍勢だな…!!
～第４話終わり～

第5話　一の砦の攻防

いくらこの砦が
天嶮に
建っているとはいえ
台地の上まで
登って来られて
包囲されたら
保ち堪えられねえ

であれば
やはり
攻撃するなら今
だな…！

おいっ…

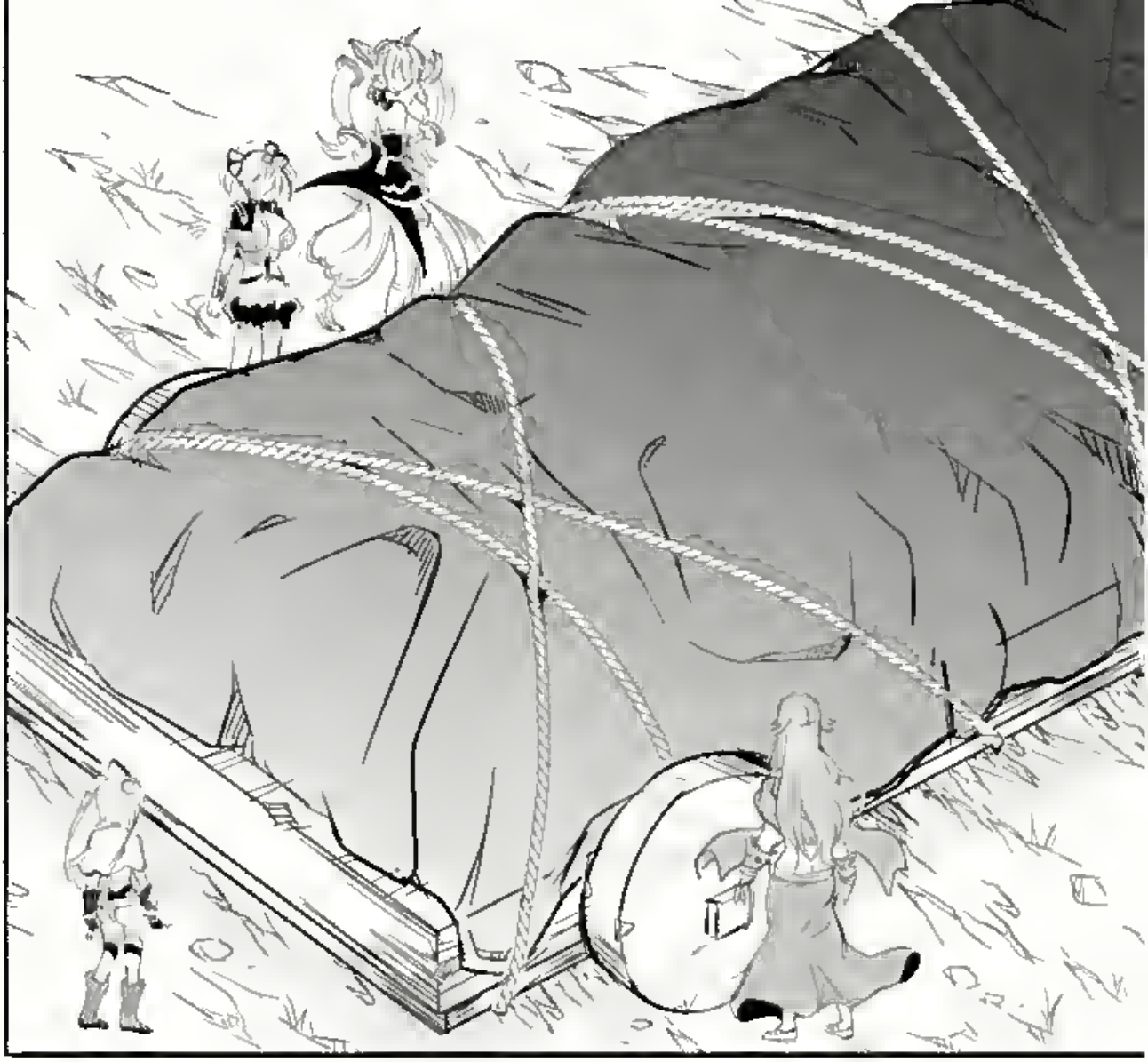
……

おいおい…
えらく
話し込んでるな
女三人寄れば
姦しいと言うが
ちゃんと戦の話
なんだろうな
……

どうした!?
何か
言いたい事が?
いや…
敵を攻めるなら
今だと
思うんだが…
攻撃
しないのか!?
敵が
動いたら
反撃する
そのための
用意は
あるのだ

そ…
そうだよなぁっ!!
で…
どんなやつだ!!
反撃するための道具だよ
やそっ
道具ってえと……
斜面に石を落とすのか!?
ゴロゴロ
いや…ここなら森に囲まれてるから丸太を落とす方がいいか!?
石…!?
丸太…!?
え…!?
違うのか…!?

なるほど！
そんな手もあるのか！
おぬしの考える手は
面白い方法だとは思うが吾らには実現が難しい手段だな
吾らの人数で大量の丸太を用意するのは手間暇がかかりすぎる
いや…
まあ…
そんな
まって…
違うってことだな…
ならどうやって攻撃するんだ？
矢を射かけるってわけでもないんだよな
あれでだよ



あれは…
兵器か何か
か…!?
投石機…
じゃ
なさそうだが
……
気に
なるか!?
そりゃ
もちろん
気になるわ！

これから動かす準備をする
間近で見せてやろう
アイス！覆い布を取ってくれ
下に降りる!!
ガッ
な…
なんだあれは!?

あれは
木偶人形だ

木偶…
……人形
……!?
何をする物
なんだ!?
人の兵を
攻撃する物
だよ
無論
攻撃だと
……!?
あれで
どうやって
戦をするんだ
…!?
今使い方を
見せてやる
ほれ
ほやほやするな
降りるぞ
ひらり
!
悪いな
お先に
行かせて
もらうぜ!?
ﾋｭｯ

なんだ!?
随分と張り切っているな
レラとリンナも降りよ
クゥは残って見張りを続けろ
……

どうした!?
どうして途中で止まっている!?
おぬし木偶人形に興味があるのではなかったのか!?
いやぁ
いい眺めなんでついて…
ああ?
何を言うておる…
…って
はっっ!?

この期に及んで…
阿呆かおのれは
――!!
痛てえ
――っ!!
うう…

昨夜
自重しろと
言ったばかり
なのに
何をして
おるのだ
貴様は！
あ…いや…
登るとき
あまりにも
素敵な光景を
見たから
もう一度
拝みたく
なってな
今押さえても
遅いと
思うがな…
おぬし
ユウキの前で
今のような
真似をすれば
確実に
殺されるぞ

“今の真似”よりも
もっと凄いことをしてるわけだが――
どうかしたのか？
あ…ああわかったって反省してる

本当に反省しておるのか貴様
してるしてる！　大反省大会中だ!!
何しろ反省させたら俺の右に出る奴はいねえ！

こ…こいつは全く反省の色が見えんわ
やはりただの出鱈目ですけべなだけの男だったのか……？
いやそんなことはないと思ったのだが

あのぅ 姉様
そろそろ
準備を
しないと
人の兵が
登って来て
しまうかもですよ!?
ああ
そうだな
急ぐか
へえぇ
これが木偶…
ん!?

こいつ
よく見りゃ
手足が本体に
つながってねえ
今から組み立てる
ってのか…!?
しかし嵌め込むような
凹みや突起はない
……
ああ
手足なら
これから
繋げるのよ
これでな！

これ…!?
全然
わかんねぇぞ
……!?
ピッ
プロス

ふむ…
なんとなくだが
カラクリが
読めて来たぞ
しかしこれで
戦えるのかと
言えば
話はまた
別だが
――
さて
これでよし
…
レラ！
ペタ

退がれ！
ほら！
ナーガさん
も
あ…
ああ!?

起てよ木偶！
貴様が刀を以てその命に替えよ!!
ギリ
ギリ
ズズズ
わっ

どうだこれが吾の武器よ
驚いたか!?
いや…驚いたも何も…
こいつは凄えわ

これを
動かして
いるのが
あんたの
魔法…
なんだな？
そうだ
手や足や胴体を
繋いでいるのは
見ての通り吾の髪の毛よ
さらに各部品には
予め吾の魔力を
仕込んである
つまり
髪の毛は
魔力を木偶の
全身に流す
回路でも
あるのだ
こいつは凄えな…！
本当に凄え！
で これを何体
出撃させるんだ!?
いや
これ一体だが!?

これだけ…
なのか!?
百やそこらの
軍勢を相手に
するなら
これ一体で十分だ
いやまあ…
相手が百以内なら
いいが
それ以上だと
簡単には
いかねえだろ!?
あ もしかして
こいつが
火を吐くとか…
雷を
落とすとか!?
そんなものは
持ち合わせて
おらん
レラが貼った
呪符を彼女の
魔法で燃やす
ことは出来るが
あくまで最後の
手段だ
木偶ごと
燃やして人の軍に
突っ込ませるわけ
だからな
まあ予備の
木偶はあるが…
予備が
あるなら
同時に出撃
ってのは…
これだけ
大きな木偶に
なると
何体も同時に
操ることは
出来ん

じゃあ戦場に出るのはこいつ一体だけか…
でもどうやって戦うんだよ…
これだけの巨体なのだ
手を振り回すだけで近寄って来た兵どもは吹っ飛ばされるわ

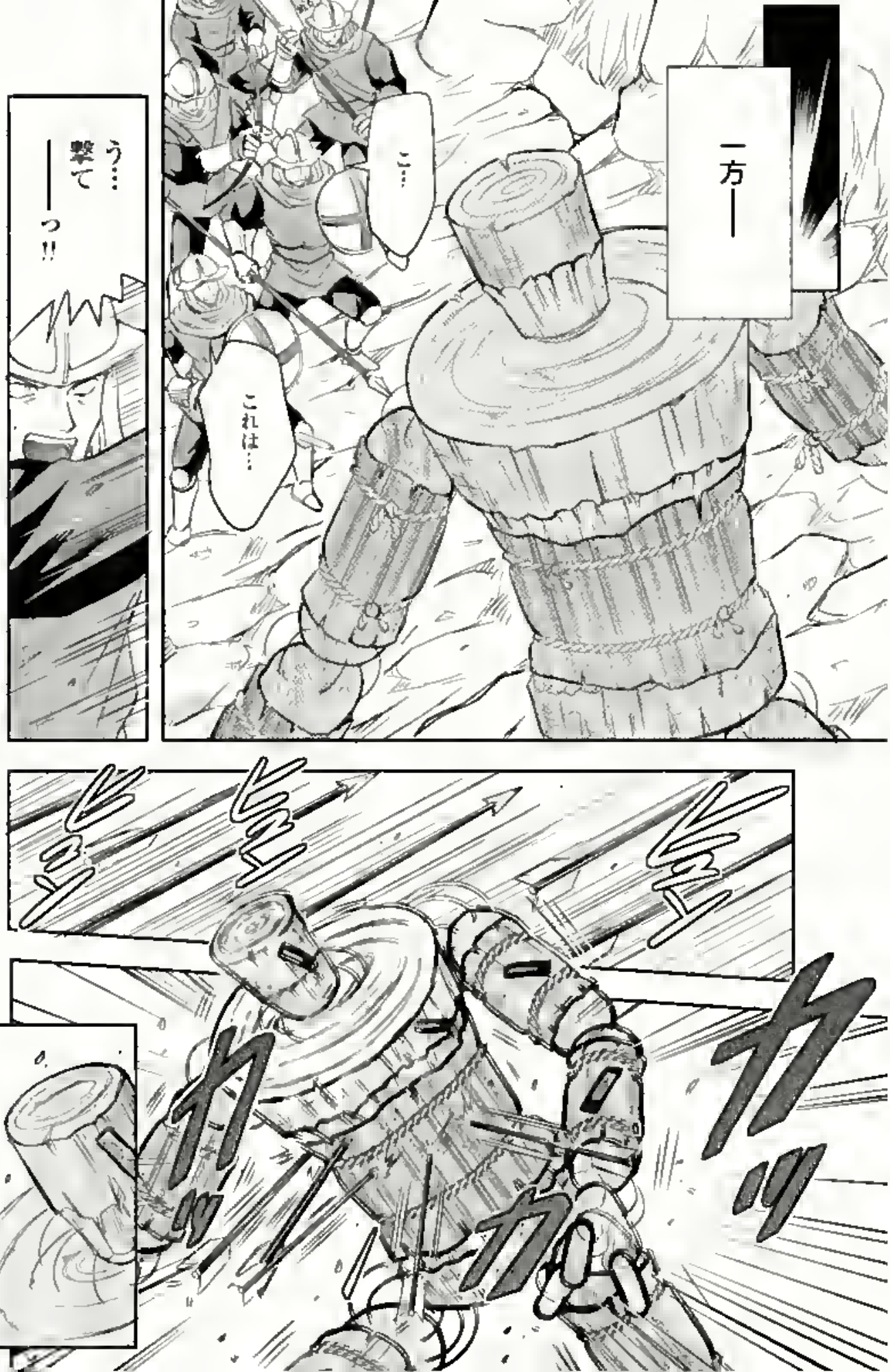
おいおい冗談だろ……
こんな凄い魔法とやらが使えるのに
結局一番肝心なとこは原始的な肉弾戦かよ!?

何か不満そうだな
いや…
姉様人の軍が斜面を登り始めました！

ゴゴゴ
む
来たか
では木偶を出す
門を開けよ!!
よし
行け!!

ズシン
ズシン
ズシン
ゴゴゴゴゴゴ
門を閉めよ
各々持ち場につけい!!

もう一度
望楼に
登るぞ
おいっ
あの木偶は
操らなくて
いいのかよ!?
望楼からの方が
よく見える
見ながらの
方が複雑な
動きをさせ
られるのだ
魔法には
驚かされるし
大したものだと
感心するが
なんだか
腑に落ちねえ…
俺なら
もっと何か
別の形で
有意義な
使い方が
出来るんじゃ
ないか…!?


一方――
こ…
これは…
う…
撃て
――っ!!

わあああ
――――
――――
!!
この程度では
効かんというのか
……!?
そうか
――――
ああやって
木偶を
操っているのか

この震えは
寒さからじゃ
ねえ
むしろ
その逆
ブルッ
この国が
小国に
分かれて
争っている
というなら
世界を
統一
してやる

この国に
戦が
絶えないと
いうのなら
俺が
終わらせて
やる
この世界で
人と魔女が
いがみ合って
相容れずに
いるのなら
共に暮らせる
世の中を俺が
創ってやる
!!
〜2巻に続く〜

自分で原作を書かない、企画にも関わらない、
純然たる自作品の漫画化って
初めての気がします。
なので、漫画版「ナーガ」は
とても楽しみでしたし、
出来上がった作品は、毎回、
楽しく読ませてもらっています。
小説では敢えて書き流している箇所が、
漫画だと絵になったりするので、
じつに興味深いですね。
こうして一冊のコミックスにまとまるのが
いい機会です。
皆さんも、小説と漫画を読み比べて
楽しんでください。

舞阪洸

祝☆コミックス発売
よ太
文庫で世界観や街並み人々の暮らし等々の大切で重要な要素は全部省略して
ひたすら胸と股間を描いてる挿絵描きさんにご立腹なそこのきみ！てましたよ!!ついに
どどんと登場のコミック版龍王！こんなところやあんなところももれなく細部にわたって
村松先生によってきっちり描かれているので何回何回も読んで２巻も絶対に買おうね!!約束だよ☆

龍王くえすとの！

△設定はこんなイメージで

龍王くえすとの！2

おしまい。

第④巻のおとどけです!
今回はこがを
書けてくださった
無極さま、
可愛くかいて
くださりありがとう
ございました。
担当さまにも
二人にはげまして
おかげ
そしてたくさん
本誌コミックスと
読んでいただいた
読者の皆様!
本当にありがとう
ございました!!
これからも頑張りますので
よろしくお願いいたします
村松麻由
MAYU MURAMATSU.

落ちてきた龍王と滅びゆく魔女の国 1

著者　……村松麻由

原作　……舞阪洸

発行人……三坂泰二

発行所……株式会社メディアファクトリー

http://www.mediafactory.co.jp/

2013年8月31日　　電子書籍版　ver.1.1.0

無断で複製・印刷・放送・データ配信などをすることは、
かたくお断りいたします。

©2013 Mayu Muramatsu
©2013 Kou Maisaka